

令和 3 年度第 6 回政策討論会第二分科会要点記録

○令和 3 年 12 月 22 日（水）10：00～10:47

出席者：中井（座長）、宇野（副座長・記）、反甫、桑原、京西、松本、岡林、雪本

●目的：今後の岸和田市での文化財行政の課題解決・あるべき姿について討論する

●京西議員から資料の提出を受け、説明を受けた。

・ 前回提示した課題について、下記の取組みが考えられる。

①岸和田市文化財保存活用地域計画の策定について

1. 次期総合計画骨子案の基本目標「岸和田の次世代を育むまち」に文化財行政が位置付けられることになる（企画課政策担当）。具体的な方針は、今年度策定の基本計画で示されると思われるため、議会の意思を明確にする必要があると考える。
2. まず、岸和田市文化財保存活用地域計画の策定スケジュールを作り、指定文化財及び文化財予備群の現況調査から始めるべきと考える。

②建物系文化財及び文化財予備群の個別保存計画について

1. 前項 2 の現況調査において、特に必要な建物について個別の保存計画を作る必要があると考える（民間所有含む）。

③文化財の公開や活用（イベント等）による市民との課題共有について

1. 岸和田城の天守閣や八陣の庭での観光イベントは実施してい

るが、教育委員会や産業政策など幅広い活用が不足している。
また、民間団体による活用も積極的に受け入れるべきと考える。

④上記に係る財源と人材の確保について

1. 文化財行政に必要な予算確保と専門職員の育成・確保に向け、岸和田市文化財保存活用地域計画の策定に着手すべきと考える。
2. 文化財保護基金の積立財源が五風荘からの納入金だけでなく、前項の活用イベント等の収益の一部も財源とする見直しが必要と考える。

- ・府の文化財補助金は少ない。国は最高 85%まで出るようだ。岸和田市では、久米田寺古文書や八陣の庭の修復で活用している。市民にとって岸和田の持っている歴史的文化的な価値を発信すべき。

- ・【課題解決】本市の課題は大きく分けて 3 点あると考える。人材不足、財源不足、公開(PR)不足であり、最も重要なのは人材不足である。岸和田市はお城を擁し数多の歴史が繰り広げられてきたと思われるが、余り世に出ていない。早急な人材確保が求められ、特に視野が広く動きの速い者が必要である。

【あるべき姿】

人材：専門職、総合職を含め幅広い人材を擁している。

環境：歴史研究会や歴史愛好会、文化財所有者会などの民間団体が結成されている。

行政：歴史の研修会、セミナーや発信を定期的実施している。

以上の状況を活用して、文化財保存活用地域計画を作成・推進し文化財を継続して後世に守り継ぐ。

- ・文化財の持つストーリーを動画などでもっとアピールするべき。
岸和田市は郷土文化財に対する意識が薄いように思うのでやる気と意識を強めていくことも大事と考える。市にももっとあと押し、やる気を持たせる等。先進事例の市も調査にいきたい。
- ・本市でも文化財修復の為、ガバメントクラウドファンディングを行っているということだが、現時点で10万円ほどしか集まっておらず、大阪城の石垣の事例などと比べると非常に少額である。知名度の問題が大きいと思うが、文化財に注目を集めるストーリーや魅力的な返礼品が無く、注目を集めていないのが問題ではないか。ふるさと納税の自動販売機のようなものを設置している自治体もある。例えば、岸和田城に設置して八陣の庭を見ていただいた方に、その場でふるさと納税での支援をしていただくというのはどうか。
- ・市民との課題共有、集客イベントが大事で、実際に見る機会を増やして、人に寄ってもらい、現場で、見て、わかりやすい丁寧な説明をする機会をつくってもらう事が大事。興味を持ってもらう事で、研究などを始めたいと思う人が出てくるかもしれないし、人材育成に繋がるかもしれない。
- ・人員について、今年度四回目の募集を行うということだが、新規ではなく経験がある転職者をいかに引っ張れるかが重要である。未来のためにも人材育成が重要である。現状、人が来ていない状態で、次年度から高石市の業務も担うわけで心配である。

●次回の開催は、令和4年1月17日（月）10時から
岸和田市の課題解決の為のまとめの作成に入る。